

文化財学習会

# ふるさと探訪

テーマ **公淵池(東植田)周辺を訪ねる**

講師 久保 征四郎

日時 平成29年10月29日(日)



共催

高松市歴史民俗協会  
高松市文化財保護協会  
高松市教育委員会

# 目次

1	公測池について	・ ・ ・ 1
2	石碑と神社	・ ・ ・ 2
3	配水舎と石窟 <small>せっけつ</small> （堰結）（吐水場）	・ ・ ・ 3
4	岩破と嫁姑の岩	・ ・ ・ 4
5	高柿神社	・ ・ ・ 5
6	淡墨桜の木と継体天皇の碑	・ ・ ・ 6
7	菊花展	・ ・ ・ 7
8	城池	・ ・ ・ 7
9	二子山、城山	・ ・ ・ 8
10	戸田城	・ ・ ・ 9

# 1 公渕池について

両植田地区には大きなため池が四箇所あります。これらを総称して、四箇池と呼んでいます。古い順に神内池、城池、松尾池、それとこの公渕池です。この池を造ったのは、それまでの三箇所のため池では、年々増加する新田と五、六年に一度の割で襲ってくる干ばつの被害を防ぐためには十分ではないため、東植田の地に更に新池を築くことになったようです。

池の名前については、昔この地に淵があり、源平の戦いで敗れた平家の公家が身を投じたという話にちなんで名付けられたと伝えられています。

工事は、文久二年（一八六二）四月に着工しましたが、当時は幕末の混乱期でもあり、工事の面でも、資金の面でもいろいろ障害があつたにもかかわらず、高松藩最後の藩普請として異常なまでの熱意で築造されました。

完成は翌三年の九月で四箇池の中で第四番目の池として誕生しました。当時の池は現在も減水時に見える中堤防までの池でありましたが、その後、昭和五年（一九三〇）十二月から同八年三月までの四年余をかけて、県営工事として改修されて現在の公渕池が誕生したのでした。貯水量は四箇池の中でも最も多く一七六万トンあります。

堤の造成には水利組合の人たちの労力が利用されました。当時はその時節の歌に合わせて杵を突き足で踏み固める「千本突き」で造られたもので、この「千本突き」に参加した婦女子は皆、赤いたすきに赤い腰巻、揃いの衣装で音頭取りの歌に合わせて突いたものでしたが、その風情は県内屈指の高い堤と共に近代的なユルの構造や余水吐のアーチ型の石組などが付近の景色に映えて、大変美しく見えて人々の目を引いたそうです。



堤防の高さ28m、長さ260mある



美しい水面から遠く嶽山を望む

## 2 石碑と神社

石碑は三基建てられていますが、一番大きいのが西植田町の村尾文一氏の文章による、「公淵池修築碑」です。これは氏の豊かな学識をもって漢文で書かれたもので非常に難解でありましたが、文書館の先生方にも助けをいただきながら、独断ではありませんが分かり易く解釈すると、おおよそ別紙のように思えるので参考にさせていただきたい。

近くにある、「公淵池改修記念碑」と「四箇池用水完成記念碑」は現代語で書かれていますので、そのまま読むことができます。

隣に鎮座する神社は、公淵神社と呼ばれています。創設されたのは（勸請）文久二年（一八六二）といわれますから、公淵池の築造が始まった年に当たります。水の守護神であるミズハノメノカミ（水波能売神・網象女神）を祀っています。雨水又は用水すべての水を司る神で、農業国である我国では古来より崇敬されています



二つの石碑と公淵神社



四箇池用水完成記念碑

### 3 配水舎と石窟（堰結）（吐水場）

配水舎は底ユルから垂直に二メートルの間隔で六段階に分かれていて、水量を調節しながら適切に配水することができます。装置が設置されています。

例年ユル抜きの日には、ここで関係者が集まり神事が執り行われて放水が始まります。水は一気に導水路を下って吐水場へ流れ込んでいきます。

建物は西洋の彫刻を思わせるような、近代的な美しいデザインが施されている建築です。

#### 公渕池の堰結（吐水場）

高い堤の上にある配水舎のユルを開けると、長い導水路から勢いよく、公渕池の水が流れ落ちて、この堰結にたまりここから三方に分かれて流れるようになっていきます。私たちが子どもの頃は、よくここで水遊びをしたものです。導水路の中を登って行くとコウモリがたくさんいたのを覚えています。



近代的な配水舎の建物



石窟（堰結）から分水される

## 4 岩破と嫁姑の岩

### 岩破の伝説と嫁姑の岩について

「昔、この地区に牛追いをする若者が住んでいました。働き者で遠く阿波国まで行って牛を借りてきて田を耕していました（借耕牛という）。そのうち阿波で娘さんと仲良くなり、とうとう牛に乗せて帰ってきました。当初なごやかに暮らしていましたが、生活習慣の違いから不仲となり喧嘩するようになりました。ある日、庖丁で大根を切っていた時、姑に注意されカアツとなって嫁は「こんな庖丁で何が切れるものか」と言っただとところ、姑は「切れんと言うなら切ってみせようか」と言っで、裏山の大きな岩の前へ立っつきに切り下ろしました。すると見事に二つに割れてしまったそうです。このことが岩破の地名の起りと言われています。」

嫁と姑の岩はもともと別のところにありましたが、仲直りしたということで、後にこの地に持ってきたというお話です。



大きな割れ目が残る岩破



嫁と姑の岩と言われている

## 5 高柿神社

### 高柿神社、高柿寺について

伝記によると、この神社は永祿三年（一五六〇）頃、織田信長の時代に創建されたという古い神社です。祭神はオオヤマクイノミコトで京都の鴨神社の系統になります。

また、この地は奈良時代に高柿寺があつたという言い伝えが残っています。その名のように柿の大木があり、切り倒したその葉先が専福寺の前まで届いたというお話があります。

### 高柿神社の神木と燈籠の火種石

明治三十六年（一九〇三）に神社にあつた大木が倒れました。その一部の板を扁額として拝殿に掲げています。その内容は「当神社の境内に一对の大松があり、その大きさは周囲三メートル七十センチメートル、高さ二十メートルもあり大変美しかったそうです。拝殿の東西にありましたが、西の松は明治二十一年に枯れたので伐採しました。東の松は、同三十六年午前十時頃倒れましたが、晴天であつたにもかかわらず、その大きな音は落雷のようであつたと伝わっています。

そこで、信徒一同は協議して後世に伝えようと、記念の為、「挽いた一枚を額として残した」と記されています。

燈籠の火種石は神社の燈籠の火を付けるため、火種を起こした石です。

その他、高柿神社南側に廃寺塚跡や鐘堂の基礎石などが残っており、見ることができます。



高柿神社の正面、現在は集会場



拝殿に掲げていた、記念の扁額

## 6 淡墨桜の木と継体天皇の碑

この桜は岐阜県本巣市根尾地区の淡墨公園にある樹齢一五〇〇年以上のエドヒガンザクラです。国の特別天然記念物になっています。

蕾の時は薄いピンク、満開にいたっては白色、散りぎわには独特の淡い墨色になります。淡墨桜の名は、この散りぎわの花びらにちなんで呼ばれています。樹齢は一五〇〇年以上と推定され、第二十六代継体天皇（五〇〇年頃）お手植えという伝承があります。

作家の宇野千代さんがその保護を訴えて、活動したことでよく知られています。

身の代と 遺す桜は 薄住よ 千代にその名を 栄盛へ 止むる

この歌は、継体天皇が皇子の頃、隠れて養育されていた岐阜県本巣より都へ帰る際、お世話になった住民に桜の苗木を植えて詠んだ歌といわれています。

昭和五十八年（一九八三）、当時、前川忠夫知事が、岐阜県から種子を持ち帰り育てたものを、ここ公園へ植樹しました。



継体天皇の歌



大きく育っている淡墨桜

## 7 菊花展

公渚菊花展は、御尽力いただいた多くの方々の努力の賜によって、今年で二十六回目を迎えました。中でも現会長の飯間慶美氏の献身的なお世話によるところが大きいといえます。平成元年（一九八九）に退職と同時に、菊づくりの道に入られて、最初は地域の同好会から出発し、同四年からこの菊花展を開催するようになりました。

今ではこの美しい公渚公園の中に、三百メートルの展示場があり、二〇〇〇鉢の菊が飾られています。その中には総合花壇など菊の芸術品もあります。地元からはもちろんのこと、県内外からも多くの出品があり、約六〇〇名の方が参加されています。

十一月に審査会があり、内閣総理大臣賞をはじめ、多くの賞が選出されます。

## 8 城池

寛永十二年（一六三五）に、四箇池で最初に神内池が造られました。しかし、その完成のわずか十年後にあたる正保二年（一六四五）には、讃岐国内は大干ばつに見舞われ、早くも用水の不足を見るにいたりました。

当時、讃岐の領主は生駒家から松平家になり、大干ばつの対策として、早速領内に四〇六個のため池を築かせました。そのうちの一つが城池です。四箇池のうち、二番目にできたため池でした。

城池は、朝倉川をせき止めて造られたもので、大干ばつの翌年の正保三年（一六四六）十月十八日に工事に着手し、翌年三月十日に完成しました。

水源の朝倉川の近くに、植田美濃守の居城（戸田城）があったことから、城池と命名されました。



26回を迎える公渚菊花展の会場。

丹精込めた作品が揃っています。

## 城池と小村田之助<sup>おもれたのすけ</sup>

城池の標識に義民小村田之助のことが書いてあります。それは田之助が処刑された正保元年（一六四四）の翌年、再び大干ばつがおこり高松藩主松平頼重は領内に四百六箇所のため池を築かせたのです。この城池もその時、正保三年十月に工事にかかり翌年三月に完成しました。

小村田之助とは木田郡小村町で庄屋の家に生まれましたが、父が病弱のため、十九歳でその職を継ぎました。寛永二十年（一六四三）に大干ばつが起き、年貢を滞納する者が続出しました。これを見かねた田之助は、年貢の分納を願い出しました。

このことが藩の役人の怒りを買って「名主の分際で直訴」したということで、翌年処刑されたという悲しい話が残っています。今も小村町に田之助の石碑が建っています。

「小村田之助最後の時は、大人も子供も空飛ぶ鳥も、涙こぼさぬ者はない」と唄われています。

## 9 二子山、城山

二子山は文字どおり、二つのコブのような小山が連なった美しい山で、高い山が一メートルあり姉山と呼ばれています。低い山も一メートルあり妹山とも呼ばれています。

この姉山を別名善光山ともいいます。善光寺山の由来は、あの有名な信州長野の善光寺と関わります。善光寺は歴史が古く、奈良時代（七一〇年〜七九四年）、日本に仏教が伝来した時、本田善光が仏像を長野に持ち帰ったことに始まります。そこで、善光の名前をとって善光寺と名付けられました。単独の無宗派の寺院ですが、仏教界では特別の存在として多くの信者が参拝しています。



小村町にある小村田之助の墓



城池から見える二子山の山並み

この善光寺が、東植田の大庄屋久保又三郎によって山頂に建てられたことにより、この山の名前が付いたものと考えられます。

この山に二十四輩の石仏が残っており、親鸞聖人の有力な二十四人の弟子が創建した寺の名前が刻まれています。この地域に当初は二十四箇寺あったと思われませんが、分散して二十一箇寺は確認できません。残りの一箇寺は高様の鍵面池の近くに、二箇寺は田中の朝倉地域で見つかっています。

何故当地にできたのかは詳しくは分かりませんが、明治時代の初期頃に、二十四輩信仰が全国的に流行し、古城ふうこうめいびもあり風光明媚なこの地が選ばれたのでしょう。

## 城山

城山は二子山の後ろにある標高二四三メートルの美しい山ですが、登るには急勾配の厳しい坂道が続きます。

戦国の世、長曾我部氏がこの地に隠れ、本陣を敷いたのも領けます。

## 10 戸田城

### 戸田城について

「岡の城」とも呼ばれ、戦国時代（一五世紀末～一六世紀末）に当地を支配していた、植田美濃守を城主としていました。この地は、北は沼地、南は城山を背景とする天然の要害地でありました。現存する城跡は、上下二段になっていて上は本丸跡と書いた石碑が残っているのみで、廃墟となっていますが往時の栄華の跡を想像することができます。

この城の東に鎮守の神社、戸田神社があります。また、一段下った所に家老の屋敷があったようで、現在も見事な石組の石垣が残っています。



十八箇寺が並んで建てられている



「城の二十四輩」と書いている

また下段には、戸田城主 植田美濃守の偉大な功績を顕彰するため、立派な石碑が建立されています。美濃家の家紋は「台付扇子の紋」で、扇子の骨十三本は、一門十三武士を表しています。



戸田城本丸跡の石碑



戸田神社の拝殿



家老屋敷の石垣



戸田城顕彰碑

## 参考文献

東植田村史

山田町史

十河町史

高千穂神々の里

里山めぐり

ふるさと講座

東植田年表

ほのぼの東植田ガイドブック

飯間 亀太郎 著

山田町史編集委員

十河町史編集委員

青井 瑞穂 著

東植田コミュニティ協議会文化部

久保 征四郎 著

〃

東植田コミュニティ協議会

平成29年10月29日(日)  
ふるさと探訪  
「公湊池周辺(東植田)を訪ねる」

せつげつ  
③石窟

②石碑と公湊神社

③配水舎

④岩破

★集合場所  
公湊公園第二駐車場

①公湊池

⑥淡墨桜の木と  
継体天皇の碑

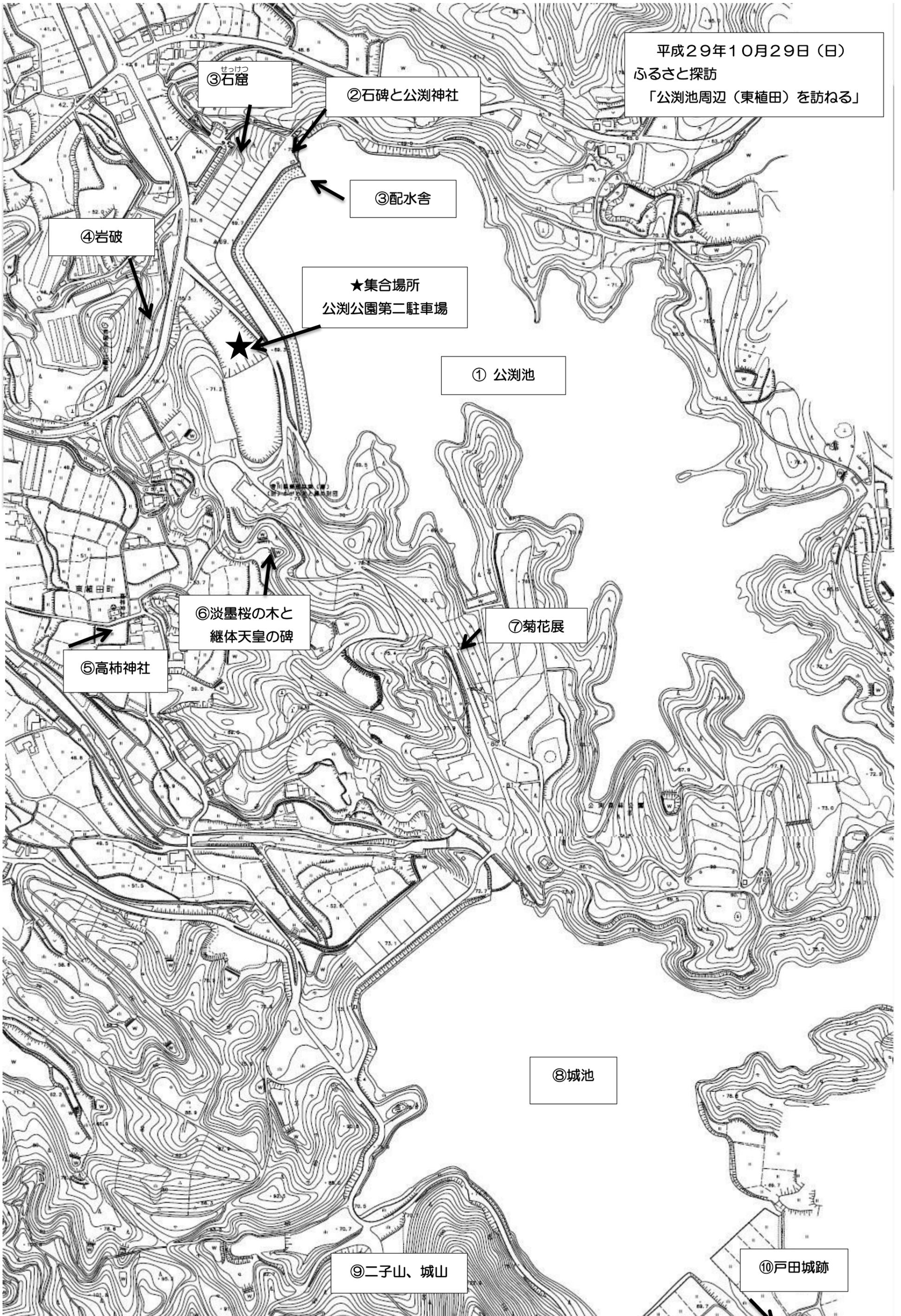
⑦菊花展

⑤高柿神社

⑧城池

⑨二子山、城山

⑩戸田城跡



10月29日（日）復路

◆ことでん長尾線

（高田駅）

（瓦町）

（高松築港駅）

12:42発 → 13:00着 → 13:05 着

次回のふるさと探訪は…

テ－マ 「三木町池戸を歩く」（予定）

と き 平成29年11月19日（日）

9:30～12:00頃

集合場所 ことでん長尾線 池戸駅（予定）

講 師 千葉 幸伸（高松市歴史民俗協会会長）

参加費 無料

☆公共交通機関を御利用ください。

☆広報「たかまつ」11月1日号に開催案内を掲載しますので、  
御覧ください。

☆小雨決行。警報発令等により中止の場合のみ、

文化財課(TEL839-2660「午前7時30分～開始時間まで」)  
でお知らせします。（電話が通じない場合は、「実施」です。）

# 「ふるさと探訪」に 参加される皆様へ

※参加中は、次のことに充分留意し、意義のある探訪としましょう。

- 1 交通ルールを守り、交通安全を心がけましょう。  
(必ず歩道を歩き、歩道が無いところでは、  
道路の端を一列で歩きましょう。)
- 2 無理をせず、体調には十分気を付けましょう。
- 3 引率者の指示に従い、整然と行動しましょう。
- 4 マナーを守り、他人に迷惑がかからないよう気を  
つけましょう。
- 5 文化財や自然を大切にしましょう。